

# 靴の歴史散歩 (104)

皮革産業資料館 副館長 稲川 實

浅草靴産業の基盤をつくった人といえ  
ば、誰が挙げても弾直樹（1823～1889）で  
あることに、間違いのないであろう。

神戸の上山勝先生から頂戴した、昭和63  
年（1988）の『弾直樹百回忌・神戸集会』  
の資料によると、文政6年（1823）父 寺  
田利左衛門、母 せんの長子として、兵庫  
県菟原郡住吉村に生まれ、幼名を小太郎と  
いったとある。天保10年（1839）江戸に入  
り、同11年には十三代弾左衛門を相続して  
いる。慶応4年（1868）弾内記と改名。そ  
の2年後明治3年（1870）には、また弾直  
樹と改名しているから慌ただしい。これに  
ついては、「内記」が新政府の官名にあり、  
止むを得ざる改名だったようである。（『部  
落解放と弾直樹の功業』）

弾直樹の屋敷について、ひと言書いてお  
きたい。よく安易に、都立台東商業高校の  
地といっているが、それだけでは誤解され  
やすいので、当時の地番に従って正してお  
きたい。先ず、  
弾家の屋敷は亀  
岡町一丁目14番  
地（掲載の地図  
参照）で、ご覧  
の通り約千坪、  
かなり広大であ  
る。現在の校庭  
部分と考えれば  
良い。都立台東  
商業の地は古く  
から、学校に縁  
のある地で、明  
治16年には亀岡

町一丁目1番地（山谷堀に面した一帯百五  
坪）に待乳山小学校があったし、明治42年  
（1909）亀岡町一丁目13番地（大番頭石垣  
元七の地）には、山谷堀小学校が開校して  
いる。

ある本に、山谷堀小学校が開校した時点  
で、弾家の屋敷も消えたような記述があっ  
たが、それは誤りである。現に大正2年時  
に製革業で区会議員、八田浪之助なる人物  
が居住しているからである。地元ではそれ  
でも、「弾さんの屋敷」と呼んでいたそう  
である。

掲載の地図は『東京市土地宝典 浅草区』  
金洪舎蔵版 大正2年発行（二千五百分ノ  
一）の原寸大部分図である。弾家屋敷の隣  
13番地には、明治42年開校の山谷堀小学校  
の名が見える。地図上にある白山神社（昭  
和12年今戸神社に合祠）も弾家近くの本竜  
寺も、弾家あってのものだったというから、  
かつての権勢のほどが知れる。

